

種名	<u>ア マ ガ エ ル</u> <u>Hyla japonica</u> 
分類	無尾目アマガエル科アマガエル属
俗称	
形態的な特徴	体長3～4cm。体色は黄緑色から灰色まで周囲の環境に応じて変化し、雲形の斑紋が生じることもある。アオガエル類とよく似ているためしばしば混同されるが、本種は鼻孔から鼓膜の後まで黒条があることから簡単に区別できる。繁殖期のオスは喉が黒ずむ。 幼生（オタマジャクシ）は尾高が高く、左右の目が広く離れた顔つきをしているので他のオタマジャクシとの区別は比較的容易である。
分布	北海道、本州、四国、九州と佐渡島、隠岐、壱岐、対馬、大隅諸島などに分布する。
繁殖行動	繁殖期は4～7月で、同じ場所で長く続く。繁殖は水田や湿地、水たまりなどの浅い止水で行なわれる。オスは水際に「クワッ、クワッ、クワッ」と大きな声で鳴き、1匹が鳴き始めると他のオスも一斉に鳴き出して大合唱となる。メスは20～30個の卵が含まれる小卵塊を2～3時間の間に何度かに分けて産む。卵は数日で孵化して幼生（オタマジャクシ）となり、初夏から10月頃までには変態して上陸する。冬は浅い土中や落葉の堆積の下、樹洞などで冬眠する。1年でほぼ成熟し、上陸が遅れたものは2年で成熟する。
生息場所	平地から高地までどこにでもふつうに生息し、低い木や草の上で生活している。林や草原のほか、公園の植え込み、民家の庭先など市街地でも見られる。
食性	上陸した個体は灌木や草の上でクモやハエ類、ガの幼虫などを食べて生活する。
生息環境への配慮事項	農村環境に生息するカエル類の中では、現在もっともふつうに見られる種である。カエル類は乾田化や水路のコンクリート化により繁殖場所や生活場所を失なって減少する種が多く、農地整備の影響を受けやすい生き物である。しかしアマガエルに限っては、農地整備後の水田や住宅地にわずかに残された水田などにも生息しており、今のところ生息状況に大きな変化は見られていない。開発が進んで他の種類のカエルが生息していない場所でも本種は生息していることが多く、環境の選択性が広い種であるといえる。しかし産卵のための水辺や餌を捕れる草むらなど、生息に必要な要素が一つでも欠ければ生息は困難となることに留意しなければならない。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	